第2回　上向台小学校 学校運営協議会 議事録（要点記録）

1　開催日時
令和8年6月19日（金） 10:30～12:00

2　開催場所
上向台小学校　図書室及び各教室

3　出席者
酒見校長、遠藤会長、吉田委員、門田委員、酒井委員、紺野委員
佐藤副校長、金子主幹教諭、花俣主任教諭、森川主任教諭、秋本主任教諭

欠席者
石川委員、鵜澤委員、村田委員、矢島委員

※委員10名中6名出席により、本会議は成立

4　次第

（1）会長挨拶

（2）校長挨拶

（3）教育活動視察（10:45～11:30）

（4）令和8年度学校評価（案）について

■ 学校側からの説明

第一回学校運営協議会で示した「学校経営方針」をもとに作成。7月中旬（前期）と12月頃（後期）に児童・保護者・教員へアンケートを実施予定。今年度は特に以下の4つの重点項目を中心に説明がなされた。

・自立した学習者の育成に向けた取り組みの充実

・授業の工夫（パフォーマンス課題の設定）

・関わりを重視した教育活動の実現（ふるさと教育）

・地域資源のカリキュラム化

（5）教育活動視察に関する意見交換（委員からの主な意見・質疑応答）

【意見】

- 自身が務めていた10年以上前には授業中に廊下に出てしまう児童も見られた時期があったが、本日の参観ではグループ学習を含め、非常に落ち着いて静かに学習に取り組んでいた。先生方の丁寧な指導が浸透していると感じる。近隣の複数校で授業に関わっているが、他校と比較しても、一番落ち着いて学業に励んでいる印象。
- どの教室を見ても、子どもたちが自分なりに比較し、工夫して答えを出そうとしていた。事前に聞いていた学校経営方針と授業実践が一致しており、すごいなと思いながら楽しく拝見した。
- 算数の授業でビーカーと水を使ってリットルを分かりやすく解説したり、タブレット端末と具体物を併用して実験的に理解を深める授業スタイルは素晴らしい。
- 算数であっても文章から計算式を立てるには「国語力（言葉を読み解く力）」が不可欠。学年が進むにつれて必要となる理解力の土台となるため、今後も文章を読む力には力を入れてほしい。
- 操作のマスター（基礎）でつまずかない配慮は必要だが、スマホやAIが答えを出してくれる時代だからこそ、人間として「自分で考える力」や「人との関わり」を身につけることが大切。理屈で覚え込ませるのではなく、幼稚園での栽培体験のように「不思議だな、なんでだろう」という興味や関心を引き出すベースを大切にしてほしい。
- 教員側から「こんなことで地域の手を借りてもいいのだろうか」と躊躇せず、「授業中にもう一人大人がいたら助かる」といった些細なことでも、どんどん地域コーディネーターに相談・提案してほしい。知恵やアイデアを出し合っていきたい。

【質疑・応答】

- 児童によってタイピングが上手な子と苦戦している子の差（個人差）があると感じる。学校での系統的な指導方針等はあるか。

→ 情報活用能力の年間指導計画において、2年生の後半からタイピングを教える時間を設けている。また、今年度からは朝学習の時間を「タブレットの時間」として明確に　位置づけ、毎週曜日を決めてタイピング等に取り組む計画を進めている。

- 算数で3コースに分かれて学習しているが、児童が自分で選ぶ際、学ぶ内容自体が違うのか、あるいはゴール（基礎・応用などレベル）の設定が違うのか。

→ 学習指導要領で定められた内容は全員が学ぶ。その上で、上のコースなどではより発展的・発展的な難しい課題にどんどん挑戦できるような形をとっている。

- 授業を参観した際、ノートに書く子と、ドキュメント（タブレット）でノートを打つ子が混在しているクラスがあり驚いた。

→ 紙に書くことが困難な児童にとって、タイピングの方が早く表現できる場合がある。　「どちらが自分に合っているか」を児童自身が選択していければと考えている。高学年　になるにつれ、打つ方が早い児童は増えていく傾向にある。

6. 事務連絡

- 次回（第**3**回）学校運営協議会について
    - 日時：令和８年９月30日（水） 14:15～15:45（※午後の時間帯となるため注意）
    - 議題予定：前期学校評価の結果、特別活動・生活指導・地域とのつながりのある教育活動、教科担任制・校内研究などについて。
    - 詳細な連絡は開催期日が近くなった段階で、改めて学校側より案内される。